



自然遊学館 だより



カヤクグリ (スズメ目イワヒバリ科)

和泉葛城山山頂、2012年12月13日、撮影・食野俊男

本州中部より北の地域で繁殖し、冬に飛来します。茂みの中で餌をさがしていたところです。

2013 WINTER

No.66



2013.1.31 発行 貝塚市立自然遊学館

目次

*ネイチャーレポート

和泉葛城山の陸産貝の観察記録 ……児嶋格… 1

龍王水のタンスイベニマダラ ……奥昌之… 4

街中の昆虫 ……岩崎拓… 5

*行事レポート

生きもの切り絵製作会Ⅱ ……川村甚吉… 8

海藻おしば ……山田浩二… 10

自然を食すⅡ ……川村甚吉… 10

源流探検 ……湯浅幸子… 13

*館長コーナー

自然遊学館の1年を振り返って…高橋寛幸… 14

*職業体験の感想 …… 16

*調査速報

千石荘昆虫調査(2012年10-12月) ……岩崎拓… 17

*泉州生きもの情報

オツネトンボ ……岩崎拓… 19

ナルトビエイの目撃情報 ……山田浩二… 20

貝塚市内で鹿の死体が?! ……山田浩二… 21

*寄贈標本 …… 22

*スタッフ日誌 …… 23

*お知らせ …… 24



ネイチャーレポート

和泉葛城山の陸産貝の観察記録

和泉葛城山の山頂周辺に自生するブナの森は分布の南限にあたり、国の天然記念物に指定されています。ブナの森は保水力があり、山頂周辺に湿度のある状態を常に作り出し、乾燥に弱い陸産貝にとっては住みやすい環境になります。このブナの森に守られて多くの陸産貝が、標高 858mの山地で世代交代を繰り返してきました。



和泉葛城山のブナ林

和泉葛城山での調査観察は 5~6 年周期で行い、今回は陸産貝の動きが活発になる梅雨期の 2010 年 6 月 15 日から 8 月 12 日までの間に 6 度行いました。その時の記録と過去に見つかっている種類について報告したいと思います。

調査場所は牛滝からの登山道側にある遊歩道を 100mばかり入った辺りで、斜面地に点在するブナの老木の周囲の斜面地を上下しながら行います。ブナの木の上や斜面地に生えるミヤコザサや低灌木の上、また堆積した落葉の中や、倒木などに

貝は着生しています。注意深く観察していきますとアズキガイやウスベニギセル、ツムガタギセル、ホソヒメギセル、コスジギセル、エルベルギセルなどがブナの木に登っているのが発見できます。その中でツムガタギセルが一番上方まで登ります。また根元に洞がある場合、運が良ければオオギセルが見つかります。オオギセルは日本最大のキセルガイで殻高 4 cm を超える個体もあり生息地は限られていて、大阪府では絶滅危惧 I 類に指定されています。オオギセルは地上棲の貝で木に登る姿は見かけることがありません。



オオギセル

微小種では殻径 2 mm 位のハリマキビが樹上で見つかることがあります。斜面地に倒れている朽ちかけた枝や倒木の裏側には、4~5 mm の丸く黒茶色で光沢の強い殻のオオクラヒメベッコウがついています。斜面地を覆うミヤコザサの上にヒラベッコウが登っていることもあります。8 mm 位の黒褐色で光沢の強い貝で防御態勢か触れると身体をくねらせて暴れます。落葉の中には 2~3 mm のカサキビやキビガイが住んでいます。小さい貝ですので見つけるのが大変ですが、ルーペで観察すると触角を揺らしながら葉っぱの裏側へ隠れようとしま

す。結構速い動きで移動します。

もう一か所の調査ポイントは、遊歩道が山頂から降りてくる石段と合流する地点よりさらに登山道を下り、左手に扇形に開けた緩やかな傾斜地がある場所で、私はここを扇状地と呼んでいます。扇状地には朽ちかけたブナの倒木が横たわり、低灌木やミヤコザサが茂り、落葉が堆積して木漏れ日が林内に入る環境です。倒木の裏側にはブナの木の生木には着生しないカギヒダギセル（絶滅危惧Ⅰ類）が生息します。分解の進んだ倒木が好きなようで倒木だけに着いています。



カギヒダギセル

倒木にはウスベニギセルやツムガタギセル、オオギセルも着きますがアズキガイはここにはいません。落葉の中に住むアズキガイは分解の進んだ倒木は嫌いのようです。この場所の落葉や枝が堆積していた中から産卵中の大きなギュリキマイマイを見つけました。コベソマイマイはギュリキマイマイに次いで大きい種です。幼貝は落葉の上や倒木の裏側で見つかりますが親貝は用心深く眼につく場所には出てきません。また生息数は少ないですがゴマガイやコンボウギセルも落葉の中から見つかります。



ギュリキマイマイ



ゴマガイ

イノシシが地面を掘り返しており、落葉も一緒にかき回されているため、以前に比べますと発見するのが難しくなっています。雨後の観察では低灌木に登っているモミジヤマキサゴが見つかります。



モミジヤマキサゴ

モミジヤマキサゴはヤマキサゴと外形は変わりありませんが、ひと回り大きく和

泉葛城山の貝はモミジヤマキサゴとされています。どちらの種も殻色が黄色と赤紫色の2タイプがあり、この種には石灰質のフタがあります。

調査で最大の成果は和泉葛城山が模式産地のトガリキビ（絶滅危惧Ⅰ類）を2個体発見することが出来たことです。模式産地とは、新種記載に用いられた標本が採集された場所を意味します。



トガリキビ

またアオキの葉裏からはウスイロシタラを、フチマルオオベソマイマイとシリオレギセルは落葉の上を這っているのを見つけました。この4種は生息数の少ない種です。この調査以前に見つけている種にはゼイギセルとカスガコギセル（絶滅危惧Ⅰ類）、アワジオトメマイマイがあります。現在までに私が確認できている和泉葛城山の貝類種の総数は8科28種になります（表1）。

陸産貝の調査は宝探しの趣があります。夏期は蚊の猛攻撃を受けながらも、つい時間の経つのも忘れてしまいます。

和泉葛城山の陸産貝リスト

科 種	学名
ヤマキサゴ科 モミジヤマキサゴ	<i>Waldemaria japonica reinii</i>
ヤマタニシ科 ミジンヤマタニシ	<i>Nakadaella micron</i>
アズキガイ科 アズキガイ	<i>Pupinella (Pupinopsis) rufa</i>
ゴマガイ科 ゴマガイ	<i>Diplomatina (Sinica) uzenensis cassa</i>
キセルガイ科 ツムガタギセル	<i>Pinguiphaedusa platydera</i>
ウスベニギセル	<i>Tyrannophaedusa aurantiaca</i>
エルベルギセル	<i>Tyrannophaedusa aurantiaca erberi</i>
コスジギセル	<i>Tyrannophaedusa plicilabris</i>
シリオレギセル	<i>Decolliphaedusa bilabrata</i>
ゼイギセル	<i>Ventriphaedusa proba</i>
カギヒダギセル	<i>Mundiphaedusa heteroptyx</i>
ホソヒメギセル	<i>Aulacophaedusa gracilispira</i>
オオギセル	<i>Megalophaedusa martensi</i>
コンボウギセル	<i>Mesophaedusa hickonis</i>
カスガコギセル	<i>Pictophaedusa hungerfordiana</i>
ベッコウマイマイ科 カサキビ	<i>Trochochlamys crenulata</i>
オオウエキビ	<i>Trochochlamys fraterna</i>
ハリマキビ	<i>Parakaliella harimensis</i>
トガリキビ	<i>Parakaliella acutanguloides</i>
キビガイ	<i>Gastrodontella stenogyra</i>
ウスイロシタラ	<i>Parasitella pallida</i>
オオクラヒメベッコウ	<i>Yamatochlamys lampra</i>
ヒラベッコウ	<i>Bekkochlamys micrograpta</i>
キヌツヤベッコウ	<i>Nipponochlamys semisericata</i>
ナンバンマイマイ科 コベソマイマイ	<i>Satsuma myomphala</i>
オナジマイマイ科 フチマルオオベソマイマイ	<i>Aegista tumida</i>
アワジオトメマイマイ	<i>Trishoplita awajiensis</i>
ギュリキマイマイ	<i>Euhadra eoa gulicki</i>

参考文献

- 東 正雄 (1982) 『原色日本陸産貝類図鑑』、保育社、大阪。
大阪府 (2000) 『大阪府における保護上重要な野生生物 -大阪府レッドデータブック-』

(自然遊学館客員講師：児嶋 格)

龍王水のタンスイベニマダラ

今から 15 年前、私は珍しい藻を見るため、名水百選のひとつである福井県の瓜割の滝を訪れました。当時の愛車は 550cc の軽自動車で、冷房の効きが悪く、目的地に着くなり逃げるように車から降り日陰に入ったのを覚えています。汗が引くのを待って上流へ歩いていくと、滝の近くに次の文章が書かれた案内板がありました。

「泰澄大師の昔から神泉と尊ばれたこの瓜割しょうずの清水は五穀成熟諸病退散の効あり、また水中の石には珍しい紅藻類が生育する」

この「紅藻類」がタンスイベニマダラであり、この時以来、淡水産紅藻を泉州地域で発見したいと思っていましたが、多くは湧水との関係が深く、湧水の数、量共に少ない大阪府中南部での発見は困難であることも感じていました。しかしながら、「紅藻」というどこか神秘的な響きが印象的で、水生の維管束植物を中心に採集していたものの、心のどこかに忘れ得ぬ存在として鎮座していたように感じます。

あの日から 14 年の月日が流れ、近木川の上流で紅藻類の一種であるカワモズクを発見したことが認識を変えてくれました。「もしかすると、他の淡水産紅藻が生育しているかもしれない」と考えるようになったのです。真っ先に思ったのは、カワモズクの自生地からほど近い龍王水でした。龍王水は湧水で土地の成り立ちや環境も近いのではないかと考えたからです。実際に龍王水付近にはカワモズクの一種

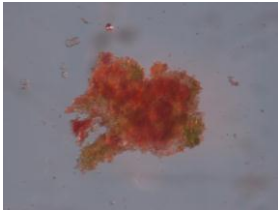
と思われる藻類と共に「赤い石」が転がっていました。しかも日光が当たらない部分は赤くなかったことから、もしかするとタンスイベニマダラではないかと思ひサンプルを自然遊学館に持ち込みました。その後、新潟大学の志賀隆先生に同定していただき、タンスイベニマダラ (*Hildenbrandia rivularis*) であることが分かった時、瓜割の滝の光景が蘇ってきたと同時に、こんな身近な場所で人知れず生育していたことに感動しました。



龍王の湧水とタンスイベニマダラ (1)



龍王の湧水とタンスイベニマダラ (2)



タンスイベニマダラが付着した石

下の写真は、はがした切片（実体顕微鏡、70倍）

2012年12月15日、貝塚市蕎原龍王水

顕微鏡でやっと確認できるほどの小さな生物ですが、一生懸命に生きているのでしょう。瓜割の滝のように水量が豊富でもないし、暮らし辛い場所かもしれません。これほどの密度ですから自身の居場所を確保するために他の個体との軋轢もあるはずです。脱落したものは流され死滅するでしょう。ベニマダラの赤い色は美しいですが、一方で競争に負けたベニマダラにも敬意を払いたく思います。

そのような事を考えていると、今度は、ベニマダラが「砂の女」という小説に登場する集落の人々に見えてきました。雪が積もって周囲が白くなった頃、赤と白のコントラストを愛でるために、その集落を訪れようと思っています。

（岸和田市、奥 昌之）

街中の昆虫

自然遊学館がこれまでに行った貝塚市内の陸生昆虫調査は、和泉葛城山の山頂や、蕎原、馬場、千石荘の里山がほとんどでした。昨冬に、街中にある小学校の先生から、その小学校周辺にはどんな昆虫がいますかと聞かれても、具体的に答えることはできませんでした。そこで、2012年4月から12月まで毎月1回の割合で、街中にすむ昆虫を調べることにしました。

コースは二色の市民の森公園から脇浜、新町、海塚、近木、中、北町、堀、港、二色パークタウンを経て、市民の森に戻る6.6kmの巡回ルートにしました。途中、芝生の丘、脇浜戎神社、紀州街道（図1）、感田神社、北境川（図2）、港―海浜緑道、二色緑道を通ることになります。それらを、①市民の森、②街中・南、③街中・中、④街中・北、⑤海浜緑道、⑥二色緑道の6区画に分けて、目視か鳴き声で確認した昆虫の種を記録しました。



図1. 紀州街道



図2. 北境川

表1. 街中の昆虫調査の区画とルート長

調査区	地名	ルート長 km
① 市民の森	二色・脇浜	1.2
② 街中・南	脇浜	0.9
③ 街中・中	新町・海塚・近木・中	0.9
④ 街中・北	中・北町・堀	1.1
⑤ 海浜緑道	港	1.3
⑥ 二色緑道	二色	1.2
合計		6.6

9回の調査で確認された昆虫は合計11目77科169種になり、区画ごとの出現種数は、区画① 103種、区画② 32種、区画③ 15種、区画④ 50種、区画⑤ 87種、区画⑥ 54種となりました。街中の区画②、③、④は種数が少なく、その中でも貝塚駅に近い区画③は特に種数が少ないという結果になりました(図3)。また、種数が多かった都市公園の区画①と区画⑤でも、同じ月1回の割合で調査を行ったルート長約1.2kmの千石荘の255種と和泉葛城山山頂の238種と比べると低い値と言えます。区画⑥は人工の小川が流れるニュータウン内の緑道ですが、街中よりはやや種数が多い程度でした。

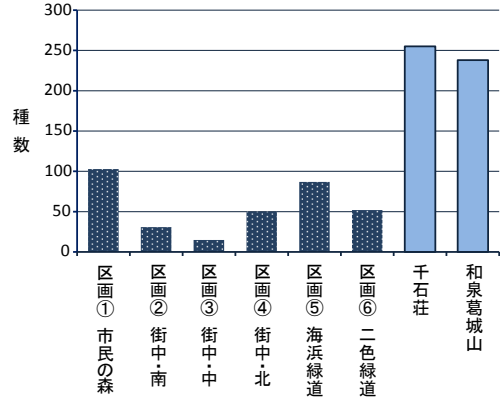


図3. 2012年4月から12月まで計9回の調査で確認された昆虫の種数

区画①から区画⑥までのルート長に関しては、表1参照。千石荘と和泉葛城山のルート長は約1.2km。ほぼ同じ距離の調査区画、および調査地間で、昆虫の出現種数の比較を行った。

街中の区画②、③、④の合計では8目45科70種が確認されました(表1)。街中の3つの区画すべてで確認されたのは、エンマコオロギ、カネタタキ、ナミアゲハ、モンシロチョウ、ヤマトシジミ(図4)の5種でした。これらは街中を代表する昆虫と言ってもいいかもしれません。このうち、エンマコオロギとカネタタキは、鳴き声だけによる確認です。コオロギ類はこのほかにも、シバズやマダラスズのような小型の種や、樹上性のアオマツムシなどが確認されましたが、キリギリス類は対照的にまったく確認されませんでした。バッタ類ではイボバッタとオンブバッタが街中の小さな草むらで生息できることが分かりました。

表2. 2012年4月から12月にかけて貝塚市の街中で確認された昆虫
貝塚市臨浜、新町、海塚、近木、中、北町、堀

目	科	種	街中・南	街中	街中・北
トンボ目	トンボ科	シオカラトンボ			○
		ウスバキトンボ	○	○	
バッタ目	コオロギ科	エンマコオロギ	○	○	○
		ハラオカメコオロギ	○	○	○
		ミツカドコオロギ			○
	ヒバリモドキ科	シバズ		○	○
		マダラズ		○	○
	マツムシ科	アオマツムシ	○		
	カネタタキ科	カネタタキ	○	○	○
	バツタ科	イボバツタ	○		
	オンフバツタ科	オンフバツタ			○
ゴキブリ目	ゴキブリ科	クロゴキブリ	○		
カメムシ目	セミ科	クマゼミ	○	○	
		アブラゼミ	○	○	
		ニイニゼミ		○	
	アワフキムシ科	ハマベアワフキ		○	
	ウンカ科	ヒメピウンカ		○	
	キジラミ科	トベラキジラミ		○	
		クストガリキジラミ	○		
	アブラムシ科	イバラヒゲナガアブラムシ		○	
		エノキワタアブラムシ	○		
		セイタカアワダチソウ			○
		ヒゲナガアブラムシ			○
	ゲンバユスデ科	アワダチソウゲンバユスデ	○	○	○
		ヘクソカズラゲンバユスデ	○	○	○
	カスミカメムシ科	ホソミドリカスミカメムシ		○	○
	マキバサシガメ科	ハネナガマキバサシガメ		○	○
	カメムシ科	マルシラホシカメムシ		○	○
	ナガカメムシ科	Nysius属		○	○
	ヘリカメムシ科	ホソハリカメムシ		○	○
		ホオズキカメムシ	○		
	ヒメヘリカメムシ科	アカヒメヘリカメムシ			○
コウチュウ目	コガネムシ科	コアオハナムグリ		○	
	テントウムシ科	クモガタテントウ	○		
		ナナホシテントウ			○
		ヒメカメノコテントウ			○
	ハムシ科	ヨモギハムシ	○	○	○
		ナガスネトビハムシ属		○	○
	カミキリムシ科	キクスイカミキリ		○	○
		ゴマダラカミキリ		○	○
ハエ目	ガガンボ科	キロホソガガンボ		○	○
	ユスリカ科	セジユスリカ		○	○
		(属不明)		○	○
	タマバエ科	ヨモギワタタマバエ		○	○
	カ科	ヒトスジシマカ		○	○
	ムシヒキアブ科	シオヤムシヒキ		○	○
	ハナアブ科	アシトハナアブ		○	○
	ツリアブ科	スキバツリアブ	○		
	クロバエ科	キンバエ属		○	○
チョウ目	アゲハチョウ科	ナミアゲハ	○	○	○
		アオスジアゲハ	○	○	○
	シロチョウ科	モンシロチョウ	○	○	○
		キチョウ		○	○
	タテハチョウ科	ツマグロヒヨウモン		○	○
		ゴマダラチョウ	○		
	シジミチョウ科	ヤマトシジミ	○	○	○
		ツバメシジミ		○	○
	シャクガ科	ウメエダシャク	○		○
	カレハガ科	マツカレハ	○		○
	シャチホコガ科	モンクロギンシャチホコ			○
	ヤガ科	オオウンモンクチバ	○		
ハチ目	ツチバチ科	キオビツチバチ			○
	アシナガバチ科	セグロアシナガバチ	○	○	○
		フタモンアシナガバチ	○	○	○
		ウメマツオオアリ	○	○	○
	アリ科	トビイロシワアリ	○		
		クロヤマアリ			○
		トビイロケアリ	○		
		アミメアリ	○		
	コシトハナアブ科	クマバチ	○		
	ミツバチ科	セイウミツバチ			○



図4. ヤマトシジミ

クロゴキブリは路上において死体で発見されたものです。その死体にはトビイロシワアリが群がっていました。たまたまりストにあがりましたが、夜行性で昼間は隠れた場所にいるゴキブリやハサミムシは昼間の調査では発見しにくいかもしれません。トラップを仕掛けるなど、別の方法による調査が必要でしょう。

カメムシ目とハエ目の大部分は、区画④の北境川の北側（堀）にある小さな草むらで確認されたものです。セミ類で確認されたのは、クマゼミ、アブラゼミ、ニイニゼミの3種でした。

コウチュウ目ではヨモギハムシ（図5）が小さな草むらや路傍のヨモギにいる姿が、チョウ目ではウメエダシャク（図6）が6月に街中をふわふわと飛んでいる姿が印象的でした。アシナガバチ類ではセグロアシナガバチとフタモンアシナガバチの2種が確認されました。

以上にあげた種が「街中でもすすめる昆虫」です。ただ、月に1回の調査なので、もれている種があるかもしれません。

行事レポート



図5. ヨモギハムシ (交尾)



図6. ウメエダシャク

街中に少しでも緑があれば、昆虫のすみ場所となります。区画②の脇浜戎神社周辺、区画④の感田神社周辺でも、少しは昆虫がいました。自分が子供の頃にはもっとたくさんのほったらかしの草むらが町の中にあっただのに、そういう場所はわずかでした。

その代わりと言ってはなんですが、市民の森公園や港の海浜緑道という小さな都市公園が整備されていて、安全に遊べるとともに、昆虫をはじめとする生きものと少しはふれあえるようになっているのだと思うことにします。

(岩崎 拓)

生きもの切り絵製作会Ⅱ

日時:2012年10月28日(日)13:30~16:00

場所:自然遊学館特別展示会場

(元関空交流館)

参加者:7人(中級4人、初級3人)

目 標 自然の生き物を観察し、切り絵で表現する。表現することでより詳しく自然観察する力を養う。

教 材 カラスウリ

初級、中級、上級の3教材用意



教材1



教材2

今回は参加者が7人と極めて適正な人数でした。初めに、カラスウリについての説明です。

ウリ科の多年草、巻きひげで他の物に絡んで成長する。雌雄異株、8、9月に開花、夕方から開く、5裂し、その先はレース状、雄花は短い房状、果実は5~7cm位の楕円形、根は利尿、果肉は、やけど、しもやけ、種は去痰、消炎剤に、根のでんぶんを天花粉という（以上「ヤフー百科事典」より）

カラスウリを見たこともないという方が全員でしたので、実物観察の機会をつくと約束しました。

切り絵に入っていきます。あらかじめ用意したコピー（黒のケント紙に貼ってはがせるスプレーのりでカラスウリコピーを貼り付けたもの）の黒でない部分を切り抜いていきます。

今回は人数が少ないこともあり、十分個人指導が出来ます。直線に近い時はカッターを寝かせて使い、小さな○などの時は立てて使うとうまくいくことも指導しました。また、実際のコピーより気持ちの上で大きく切ると手で引っ張ってちぎらなくてもうまくいくことも覚えて頂きました。



製作の様子

難しい教材でもあり、やりたい作品なので私語は全くなく順調に作業していきます。早い人は1時間過ぎたころには出来上

がりました。この作品は通常2時間から2時間半かかります。それなのに半分以下の時間でできるとは驚かされました。



出来上がった作品

また、早くできた人は遅い人の応援をしているのには驚かされました。

最後にお互いの出来を發表し合って和やかなうちにも終了としました。



合評会

(川村 甚吉)

海藻おしば

日時：2012年11月3日(土) 13:30～15:30

場所：自然遊学館特別展示会場

参加者：17人

カラフルで造形的にも大変美しい植物である海藻を用いての海藻おしば作り。楽しみながら、海の環境保全に思いを巡らす場を育んでいきたいと泉州を本拠地に活動する“海藻おしばくらぶ”代表の河原美也子さんに今回も講師に来て頂きました。

参加者は全員が海藻おしば作り初体験で、4歳のお子さんからおばあちゃんまで幅広い年齢層でした。はじめに海藻についてのお話をスライド映写を交えていただき、その後、準備されたさまざまな種類の海藻をハガキに張り付けていく作業の実演が行われました。河原講師のあざやかな手さばきであつという間に綺麗な花束をデザインした作品の出来上がりに、拍手と歓声が上がっていました。

いざ、自分の作品を作る時間では、どういうデザインにするか思案に暮れる方もいれば、つぎつぎに手に取った海藻をハガキにのせていくスピード感あふれる作業をする方などそれぞれでした。



海藻おしば作りの実演

一時間ほどかけて、一人1枚もしくは2枚のオリジナル作品が出来上がりました。作品はハガキごと濡れている状態なので、いったん河原講師が持ち帰り、完全に乾燥させた後、ラミネート処理をして頂いてから参加者のみなさんに郵送で届けられました。



参加者の海藻おしば作品

(山田 浩二)

自然を食すⅡ

日時：2012年11月25日(日) 12:00～14:30

場所：自然遊学館特別展示会場

(元関空交流館)

参加者：15人(+5人)

目的 実りの秋を実感しながら食し、自然に親しむと共に秋の自然について学ぶ。

講師 調理 栗山 昭先生

本館臨時職員 川村甚吉(自然食研究)

メニュー

むかごごはん

すりおろし自然薯団子汁

おかず：天ぷら（ハコベ、モミジの葉、柿、イワシ、姫オコゼ）

デザート：ドングリケーキ

飲み物：柿の葉茶

準備物

食材：ムカゴ 1.5kg、シイタケ適当量、自然薯 1kg、モミジ葉 50 枚、イワシ適当量、姫オコゼ適当量、ハコベ適当量、ドングリ 1.5kg、ホットケーキミックス 4 袋、柿の葉茶

調味料：醤油、酢、砂糖、みりん、酒、塩、キャノラー油、味噌、だし

調理具等：カセットコンロ 5 台、鍋大 1、茶瓶大 1、フライパン 5、炊飯器 3、タッパー4、水（ペットボトル）4、ボール5、お玉5、しゃもじ 3、かえし 4、ペーパータオル 5、カセットボンベ 6、紙皿 24 枚、ゴミ袋、バケツ、紙コップ(油入れ)4、布巾 6 枚



当日のメニュー

そうして出来上がったのは、12 時前でした。前年度もこの食すⅡのメイン材料に自然薯やむかご、ドングリ、柿の葉茶を使いましたが、今回も同様です。



食材から

毎回の事ですが膨大な準備物であるため、前々日に会場に搬入しました。これも毎回の事ですが、栗山先生は早くから来館してくれました。12 時スタートするためには時間はいくらあっても足りないからです。それまでに米洗いや材料の用意などできることはしておきました。しかし、当日姫オコゼが手に入りましたので、その料理に時間がかかり、十分な準備はできませんでした。栗山先生は全体を把握され、頭の中でタイムスケジュールを組み立てておられるようでした。

また、おかずとして天ぷらやから揚げを用意しましたが、特に柿の天ぷらは発想的に面白かったです。試食してみましたが、私にはおいしく感じました。ただ、残念なことに研究段階で渋柿を使うことに気づきませんでした。天ぷらは基本的にはあく抜きは不要ですから、ひよっとすれば渋が抜けるかもしれません。



出来上がった天ぷら

「おいしい」と言いながら食べられていました。この声こそ、準備した者にとって最高の言葉です。お互いにありがとうございました。



食事風景

食事の後、簡単な片付けや休憩をしました。再開し、すぐ挨拶です。食前に挨拶しますと、折角の料理がさめてしまうから、いつもこうしています。



栗山先生の説明

栗山先生は本日のメニューについてのレシピを説明されました。その後、私から秋について若干説明しました。秋にはモミジになる樹木があります。それまでは葉緑素と太陽エネルギー、二酸化炭素で炭素同化作用がおこりてんぷんと酸素が作られるのですが、秋にはでんぷんの通り道が切断されるため葉にてんぷんが蓄積され、赤や黄色に変色します。そのことや、シカはモミジの落ち葉を好んで食べると説明しました。ムカゴのできるユリやトコロにも触れました。姫オコゼの地方名にも面白いものがあり紹介しました。

説明の後はドングリケーキの実習です。最後に遊学館行事など紹介して終わりました。



実習

記述感想等から

いつもおいしい食事ありがとうございます。今日の私の一番おいしいと思ったのは、おみそしるでした。あのだんごのおいしい事やわらかくて口の中でとろける、とてもあまみがあってよかったです。(略) (記名1)

“むかごごはん”は、はじめて食べましたが食感がごはんにぴったりとあってとてもおいしかったです。あと、かきが天ぷらにできるなんて知りませんでした。(略) (記名2)

どングリケーキがホットケーキみたいでおいしかった。そとのカリカリの部分が一番おいしかった。

た。二番目においしかったのは、モミジのてんぷらです。(記名3)

どんぐりケーキがおいしかった。どんぐりケーキをまた作りたいです。(記名4)

お店で並んでいる物でなく、道ばたや、山でみるものが食事になるのがおもしろく、ワクワクする。家の食卓にも出来そうな物からやっていきたい。どんぐり粉にしても、手間がかかると思うけれど、その手間を楽しめるような生活をしたいナァ…とおもう。(今は子育てで仕事に忙しすぎて…汗)→だから、自然遊学館の学習会で体験、できるのがとてもうれしいわあ、又ドングリの季節が来たナァとうれしかったです。山へハイキングも行きたくなりました。山の生き物に目をやりながら楽しんでみたいです。ありがとうございました!!(無記名)

自然を食す会に参加して 天ぷら 香ばしくて、野草のやさしい味や姫オコゼの赤い泳ぐ姿を想像しながらおいしく頂きました。柿の葉茶 身近にある柿の葉に1000mg以上のビタミンCが含まれているのを知り、昔ながらの知恵を考えさせられました。(略)今日学んだ事を、家庭の中でも生かし家族の健康を守りたいと思います。(無記名)

実演できるのが子供にとって好奇心が生まれ大変楽しめました。(略)(無記名)

又、今度はどんな自然の菜が出るのか、楽しみにしています。今回のように果物のようにいただければと思いますのでこれからも皆様の研究の料理を食べさせてください。本日はありがとうございました。(無記名)

むかごのご飯とても美味しく頂きました。初めて頂きました、ホクホクの食感が良かったです。ドングリのクッキーも素朴な味がして、ほんのりした甘みが良かったです。柿の天ぷら初めてでしたがおいしく家でも作ってみます。今日は来させて頂きほんとうにありがとうございました。(略)(記名5)

(略)「自然を食す」に参加させていただきいつも食の大切さを感じ、毎日の食生活について考え手間をかけた料理と最近、特に思うようになりました。参加させていただき本当にありがとうございました。(記名6)

栗山先生のお話で柿葉茶が健康に良いとのこと、私も最近飲むようにしていますが続けていきたいと思いました。川村先生のお話も、いつも興味のある話題を取り入れて下さり、今日も感心して聞かせて頂きました。もみじの蛋白質の話)今日は

料理はイワシ以外、普段食べてないものばかりで、よい経験をさせて頂きました。今日は天ぷらが多かったのですが、他の料理法もあるのですか?(無記名)

(川村 甚吉)

源流探検

日時:2012年12月1日(土)10:30~13:30

場所:蕎原ほの字の里~箱谷の山

参加者:6人

例年この行事は、近木川の本谷筋をさかのぼっていくつかの源流地点を探していましたが、岸和田市在住の奥昌之さんから、「箱谷源流付近には池があり、珍しい藻がある」との情報を戴いたこともあり、今年は近木川の支流である箱谷川の源流の一つを目指すことにしました。

ほの字の里に集合して、箱谷林道、山へというルートです。箱谷林道を進むと、チャがかわいい白い花をつけていました。ほかにサネカズラの赤い実、イヌビワの実もありました。

山への入り口に立ち入り禁止の看板があり、所有者の方の許可を事前に戴きました。箱谷川支流の川を横に見ながらどんどん登って行きました。途中道がはっきりせず、右に行ってみたり左に行ってみたりと迷いながら登って行くと、池がありました(標高約275m)。

谷を堰き止めた池で樋もあり、池の土手は草刈りもされているようでした。池の奥に回っても目立った流れ込みはありませんでした。

館長コーナー

自然遊学館の1年を振り返って

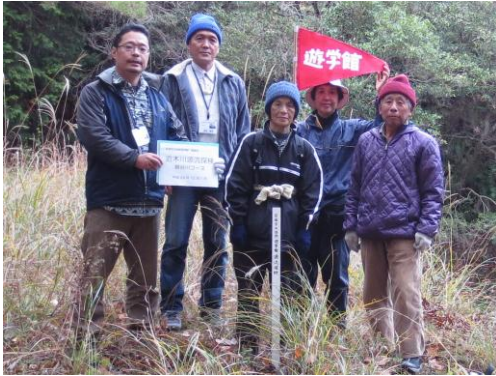
自然遊学館にお世話になり2年が過ぎようとしています。色々な事があり、戸惑いと驚きの2年間でした。去年は赴任して一年目。何もわからず過ごしていました。今年も同じようにどぎまぎしながらの一年でした。その一年を振り返ってみましょう。

自然遊学館の今年の大きな話題（生きもの編ではなく、施設編）は次の通りです。

多目的室の雨漏り修理

1階多目的室に雨漏りが見つかったのは数年前から。過去に一度、雨漏り修理を行いました。特殊な形の建物の為、完全に修理が行われることは難しく、雨がしみ込む場所に雨受けを作りたまったものを外に、というような形で施されました。しかし、それから数年が過ぎ、外壁の自然劣化に伴う傷みから雨漏りはひどくなり、そのたびごとに、職員による応急処置が施されてきました。それで、遊学館は毎年改修工事を求めておりましたが、ついに今年度予算が付き、雨漏り改修工事が行われることになり喜んでいますが、しかし、現実には厳しく、工事はなかなか進まず、未だ未着工という状態です。特別展会場として利用していた多目的室を一年間閉鎖し、皆様にはご迷惑をおかけしましたが、もうしばらくお待ちください。

因みに今年度中（平成25年3月末）には完了する予定です。この工事に伴い、2階部分をレストランから倉庫に改修し利



池の堤で記念撮影

池の周辺にはコナラ、アカマツ、スギ、タカノツメ、サカキなどがあり、水際には枯れたアブラガヤ、アオコウガイゼキショウ、オミナエシがみられ、リンドウの花が一つまだ咲いていました。



フラスコモの仲間

池の中を棒ですくうと、フラスコモの仲間のような藻がとれました。藻の中からクロスジギンヤンマとヤブヤンマのヤゴが出てきました。また、セルビンという仕掛けに餌を入れ池に沈めました。

食事のあとセルビンを引き揚げましたが、残念ながら何も入っていませんでした。水温が低く魚など生物の活動が低下していたためと思われます。

(湯浅 幸子)

用する計画もあります。しかし、これもなかなか進まず、実現にはまだ少し日時がかかりそうです。

元関空交流館を特別展示会場に

多目的室の雨漏りの為、天井がはがれおち、危険な状態になっていたことは皆様もご存じのことと思います。そこで、前述のように雨漏り工事完了まで、特別展示会場を変更する必要がありました。

そんな折、関空交流館が閉鎖され、貝塚市に寄贈される話があり、自然遊学館に一年に限り利用しないかという話がありました。多目的室の代替を検討していた私たちは、喜んで借りることにしました。

1階を展示室として利用した一年は、明るく広い部屋に多くの展示物が並んだ姿は、有名な画家や写真家が開く展示会のように見えました。

時々、「交流館は無いの？」とか、「飛行機の方が良かった。」という生の声も聞こえましたが、『生きもの切り絵展』『特定外来種と絶滅危惧種』『淡水・海洋プランクトン』『大阪平野の赤トンボ』『かたつむり』等の特別展で見ごたえのある展示ができたことは満足のいくものでした。会場に来られた方々の口からこぼれる一言、「へえー知らなかった。」「もっと展示をしてほしい。」「勉強になりました。」などなどの感想は大きな励みになりました。

今年度最後の特別展のお知らせ

2月9日から2012年の遊学館の出来事展が開催されます。昨年に引き続き2回目になります。これは、一年間の遊学館の生き

ものに関することを出来事展として公開するものです。たくさんの皆様の来場をお待ちしています。お楽しみに。



遊学館特別展示会場の看板（4月）

生きものだいすき塾開講

これは今年度、夏から始めた講座です。子どもたちの理科離れを無くし、楽しい理科学習をめざし始めました。まず、子どもたちの学習に一番影響を与える貝塚の先生方に生きもの好きになってもらおうと、各学校に呼びかけ、塾生を募集し始めました。

貝塚の全部の学校からの参加はありませんでしたが、多くの先生方が虫や魚、鳥や植物の講義に熱心に耳を傾け、多くの質問をされていました。また来年度も開講する予定です。市民の皆様の参加も歓迎します。興味のある方はお問い合わせください。

近木川汽水域の干潟再生

前号 65号で近木川汽水域の干潟形成に関し皆様をお願いをしました。以下前号より抜粋

『今後、干潟の形成とそこに棲む生き物を観察し、皆様に情報提供するつもりです。』

「一緒に観察してみようかな？」と思われる方がおられましたら、「遊学館だよりを見て、一緒に観察してみたい」とお伝えいただくと嬉しいです。』



干潟が出来る？ 2013.1.25 撮影

もうすぐ二十歳

既にみなさんご存じのことと思いますが、遊学館は平成5年10月に建てられ、平成24年で19年目を迎えました。人間に例えると成人まであと1年というところです。あと一年、遊学館はどんな成人に育つのでしょうか。皆さんも一緒に見守ってください。



市民の森入口から遊学館を望む

(高橋 寛幸)

職業体験の感想

学校教育の一環として、当館での仕事体験を希望する生徒を受け入れる取り組みで、今秋は市内の2つの中学校から計4名の2年生の生徒が来てくれました。体験後に感想文を寄こしてくれましたので、ここに掲載します。

期間：2012年10月17日～19日

初めに打ち合わせをした時から、「自分は大丈夫なんかな～」と、すごく不安で、仕事体験に行くのが少しいやでした。1日目、初めて仕事を体験しました。自然遊学館はあまり仕事をしていないイメージが多かったので、こういうことをしているんだと少し勉強になりました。覚えることがいっぱいで大変だったけど、楽しそうと思えるようになりました。2日目は、1日目に聞いたことを今度は自分がすることになっていたけど、イマイチで、教えてもらいながらえさやりをしました。小学校の団体が来て、全然話しかけられなかったけど、質問してくれたりして、話すことができました。その後は、水そうのそうじや水かえを教えてもらいました。生き物の世話をするのは大変だと改めて思いました。3日目、今度はきちんとえさやりができてうれしかったです。水そうのそうじもまあまあできました。カニの水そうの水かえもして、すごく楽しかったです。来る前は不安で「イヤやなあ～」と思っていたけど、こういうのもすごくいいなと思いました。ありがとうございました。

(貝塚市立第二中学校2年 女子1名)

期間：2012年11月15日～16日

職業体験を2日間やらせていただきありがとうございました。この2日間は、しんどいことや楽しいことをいっぱい知ることができました。みなさんが優しくていねいに指導してくれたので、とても楽しかったです。昼食の時の会話も、とても楽しかったです。報告会の時と似たような文章ですけど、2日間本当にお世話になりました。また、ひまがあれば、遊学館のイベントに参加するかもしれないので、その時はよろしくをお願いします。2日間という短い間でしたが、本当にありがとうございました。

(貝塚市立第五中学校2年 川崎奎典)

2日間という短い間でしたが、様々なことを教えていただき、ありがとうございました。魚のこと、エビ・カニのこと、植物のこと、雨量計のこと、自然生態園のことなど、とても面白かったです。もっとも驚いたのは、素手で魚にふれると、やけどさせることです。水そうのそうじを除いて、あっというまに1時間、2時間と過ぎていきました。とても楽しかったです。またボランティアなどでやりたいです。2日間ありがとうございました。

(貝塚市立第五中学校2年 根来龍太郎)

職業体験でいろいろ教えていただいて、ありがとうございました。初日の餌やりはたくさんの種類の餌があり少しとまどいました。テナガエビの仕分けは、エビが全部赤に染まっていて仕分けが難しかったです。一日目、一番びっくりしたことは魚

を手で触れると魚がやけど状態になるということです。一日目、一番つらかったことは水そう掃除です。水がつめたく大変でした。二日目、この日は自然生態園に行きました。たくさんの種類のどんぐりがありました。二日目、一番びっくりしたことは、自然生態園の池がスコップなどで人工的に掘られたということです。二日間、本当にありがとうございました。また時間があれば、行事に参加したいと思います。

(貝塚市立第五中学校2年 辻和馬)



つげさん

調査速報

千石荘昆虫調査 (2012年10-12月)

2012年10月9日

一部の水田では稲刈りが終わり、当日も稲刈り作業中の水田がありました。セミはツクツクボウシが1匹だけ鳴き、トンボは牛神池でリスアカネを数匹見ただけ、チョウ類も6種だけで、そろそろ昆虫のシーズンも終わりかなという感じがしました。

この時期の樹液にはオオスズメバチがたむろし、他の昆虫はあまりいません。しかも先月より殺気立っていて怖かったので良い写真が撮れませんでした。その代わりと言っては何ですが、キアシナガバチの写真を載せました(図1)。ふだん見る働きバチより大型だったので、おそらくこれから越冬する女王なのだと思います。



図1. キアシナガバチ



図2. サツマヒメカマキリ幼虫

そんな中、バッタの仲間だけは、比較的多くの種が確認できました。樹上からはクサヒバリ、カネタタキ、アオマツムシの鳴き声がし、草上ではササキリ類が鳴き、地面近くからはエンマコオロギやオカメコオロギ類、マダラスズなどの鳴き声が聞こえました。トゲムネアリバチ（ハチ目アリバチ科）がこれまで遊学館に標本がない種でした。

2012年11月7日

稲刈りはすべて終わり、チョウ類は5種のみ、鳴く虫はと言えば、クサヒバリとカネタタキが少しだけで、雲で陽がさえぎられると、もう冬は近いという景観です。ヌルデミミフシという虫こぶには穴が開き、ヌルデシロアブラムシの成虫が脱出した後のようでした。林縁で無数に飛び回っているのは、ハエではなく、ホシヒメヨコバイでした。不調だったデジカメが調査途中でとうとう動作しなくなり、現場では途中から画像記録がありません。


新機のデジカメで採集したサツマヒメカマキリの幼虫を撮影しました。大阪では唯一、幼虫で冬を越すカマキリです。

2012年12月3日

鳴き声はカネタタキが10匹程度、オナガササキリが1匹で、チョウ類はキタテハ1種だけが観察できました。ヨモギにはヨモギクキコブフシとヨモギワタフシという虫こぶが付いていました。いずれも翌春にタマバエ科の成虫が羽化します。普通種ながら念のために持ち帰ったクモヘリカメムシの飛び立つ瞬間を撮影することができました（図3）。



図3. クモヘリカメムシ

 泉州生きもの情報

オツネントンボ

先月から、上久保文貴先生の指導で、千石荘の大木調査を始めていて、その際に撮りもらったコナラを撮影して思ったことは、まだ落ちていない葉がさまざまな紅葉の程度で、ステンドグラスのように美しいということです。大小で木の命に差はないですが、大木は長い年月をその場所で生きてきた証で、千石荘の「財産」と言えます。

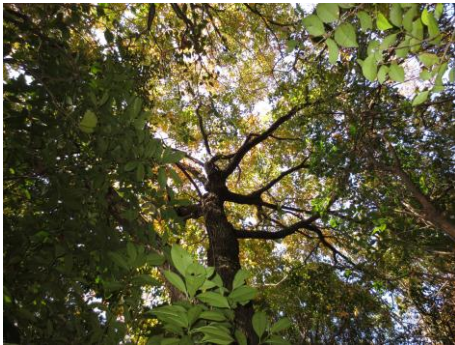


図4. コナラの紅葉

また、この時期にはクヌギ・コナラ・アベマキの葉が落ち、林床はその落葉で埋め尽くされます。例えば川では、上流域で川に落ちた枯葉が食物連鎖の始まりとなります。それと同じく、林床でも落葉が食物連鎖の始まりとなり、土壤動物や微生物の働きによって、地上の生命の源とも言える「腐植層」が形成されます。その腐植層の形成スピードはきわめてゆっくりで、ふつうは100年で1cmも積もらないそうです。大木も千石荘の宝なら、生きた土壌とも言われる腐植層も千石荘の宝なのです。

(岩崎 拓)

和泉葛城山の山頂付近で、昨冬の2011年11月8日、オツネントンボ *Sympetma paedisca* のメス成虫の写真を撮りました。この時は撮影後に逃げられてしまい、1993年以来の標本を得る機会を逃してしまいました。撮影と採集の両方を欲張り失敗したのです。そして約1年後、2012年10月6日、同所で、オツネントンボのメス成虫を撮影・採集することが出来ました(図1)。



図1. オツネントンボのメス成虫

(和泉葛城山山頂、2012年10月6日、体長34.5mm)

これまでの自然遊学館の標本記録は、1993年5月6日、貝塚市森、1♀、北山昭氏採集、1993年6月6日、貝塚市馬場、1♀、橋本夏次氏採集、の2個体だけでした。

「オツネン」は、漢字で書くと「越年」で、それは成虫で冬を越すという意味です。1993年の2個体は成虫で冬を越した後の繁殖シーズンに採集されたものです。同じく、成虫で冬を越すホソミオツネントンボは

遊学館に 20 個体の標本があるので、オツネントンボの方が野外でも少ないでしょう。日本には、この他、ホソミイトトンボを合わせて、3 種の成虫で冬を越すトンボが生息しています。

トンボ目では例えば、アオモンイトトンボ、ギンヤンマやシオカラトンボなど、幼虫で冬を越す種が多数派で、アカネ属のように卵で冬を越す種もいますが、成虫越冬は少数派です（その他、冬の低温のため幼虫が死んでしまい、春に南方から成虫が飛来して夏から秋にかけて世代を繰り返すウスバキトンボもいます）。

オツネントンボは羽化した池沼から離れた場所で越冬することもあり、山頂付近も越冬場所の一つになっているのかもしれませんが。わざわざ標高 850m 付近の氷点下の日もざらにある場所を選ばなくてもいいような気がします。

新井裕さんの「トンボの不思議」という本には（関東地方の話ですが）、「11 月上旬から飛来して、3 月中旬まで、この越冬場所にとどまるが多かった」という記述があるので、時期的に判断して山頂付近から別の場所に移動していく可能性もあります。それを判断するには、まだまだデータが少なすぎます。

オツネントンボの分布域は日本、朝鮮半島、中国東北部、シベリアからヨーロッパにかけてです。*Sympetma* 属はオツネントンボを含めて世界に 3 種が知られ、いずれも旧北区（＝ユーラシア大陸のヒマラヤ山脈より北の生物地理区）の比較的涼しい地域に分布し、成虫で越冬します。冬季に池沼が凍って水中で越冬できない地域に適応

した生活史なのかもしれません。成虫は不凍タンパク質で氷の結晶が体の組織を破壊することを防いでいるのだと考えられます。

オツネントンボは日本では北に行くほど多いようで、この話に合っているのですが、ホソミオツネントンボとホソミイトトンボは北に行くほど多いわけではないので、冬季に池沼が凍って水中で越冬できない地域に適応した云々の話は割り引いて考えてください。

参考文献

- 新井裕 (2001) 「トンボの不思議」、どうぶつ社。
 石田勝義 (1996) 「日本産トンボ目幼虫検索図説」、北海道大学図書刊行会。
 椿宜高・生方秀紀・上田哲行・東和敬監訳 (2007) 「トンボ博物学—行動と生態の多様性—」、海游社。
 山本哲央・新村捷介・宮崎俊行・西浦信明 (2009) 「近畿のトンボ図鑑」、ミルンヤンマクラブ。

(岩崎 拓)

ナルトビエイの目撃情報

2012 年 7 月 27 日、自然遊学館のすぐそばの運河にかかる二色大橋で、このところエイの群泳をしばしば見かけると、来館した近所の方からの情報がありました。ご自分で撮影されたデジカメ画像を見せてもらうと、ナルトビエイ（トビエイ科）と判別できるものが、5、6 匹群泳しているのが写っていました。



二色運河のナルトビエイ
(撮影：プロガーおっしょさん)

近木川河口でしばしば死体が打ちあがっているのは、アカエイ（アカエイ科）ですが、ナルトビエイは胸びれがもっと大きく、鳥の翼のように羽ばたくように海中を泳ぎます。また、ムチ状の尾部にはアカエイと同じく、毒を持つ鋭い棘があるので注意が必要です。

実は近木川河口の突堤においても、数年前からナルトビエイと思われる目撃情報はありました。瀬戸内海では1997年に初めて生息が報告され、頻繁に目撃されるようになったのは最近のようです。本来、温かい海に住んでいたのが、温暖化にともなって生息域を拡げてきたと考えられています。

ナルトビエイはアサリなどの二枚貝が大好物で、体も大きくなり、たくさん食べます。二枚貝を養殖している漁場では食害が問題となり、このエイの生息が大量に確認されている瀬戸内海や有明海では、駆除作業が行われ、水産庁では「漁業有害生物」に選定しています。

(山田 浩二)

貝塚市内で鹿の死体が?! ...

2012年12月5日、貝塚市役所廃棄物対策課より自然遊学館に電話で、二色産業団地でシカの死体があるとの情報が入り、現地へ同行しました。場所は某工場の駐車場で、覆われていたブルーシートをめくると、確かにニホンジカのまだ幼いメスの仔鹿でした（体長約1m）。工場の方のお話によると、出入りの業者の方言わく、トラックに引っ掛かっていたものが「ドサッ！」と落ちたのが、なんと鹿だったとのこと。業者の方は京都府のダム付近を走行中にシカの死体を2体目撃した直後、タイヤに何かを巻き込んだ異音を聞いたそうです。

つまり、置かれていた鹿の死体は、京都から貝塚市まで思いがけなく運搬されてきてしまったものだったわけです。亡骸は損傷が激しく、市の方で火葬して頂きました。兵庫や京都などでは、鹿の増加で人里での目撃例が増えていると聞きますが、可哀そうな現実を目の当たりにした思いでした。



貝塚市内で見つかった仔鹿の死体

(山田 浩二)

寄贈標本

<植物>

- ◆奥昌之さんより
タンスイベニマダラ 付着石 1点
貝塚市蕎原 2012年12月15日採集

<鳥類>

- ◆久保元嗣・左神一也さんより
ツバメ 死体 1点
貝塚市木積 2012年6月24日採集
ヤマガラ 死体 1点
貝塚市木積 2012年10月4日採集
- ◆飯田政治さんより
ヤブサメ 死体 1点
泉南市男里川河口
2012年9月25日採集
- ◆永宮浩美さんより
ヤブサメ 死体 1点
貝塚市木積 2012年10月6日採集
- ◆田中かける・瀬川しょうま・辻ゆうとさんより
キジバト 卵殻 1点
貝塚市二色 2012年10月22日採集
- ◆松山けいご、津川ひろゆき、荒木優花、松山璃美さんより
モズ 死体 1点
貝塚市二色 2012年10月28日採集
- ◆若野昌彦さんより
オオルリ 死体 1点
貝塚市津田南町 2012年10月29日採集

<爬虫類>

- ◆森下ゆうや・荒野駿哉さんより
アオダイショウ 生体 1点

貝塚市脇浜 2012年10月2日採集

- ◆実森武彦さんより
ニホントカゲ 生体 1点
貝塚市橋本 2012年10月1日採集
- ◆泉谷和樹・松葉正浩・矢野温大さんより
ヤモリ 生体 1点
貝塚市二色 2012年12月19日採集

<魚類>

- ◆千地芳樹さんより
イトヒキサギ 生体 1点
近木川河口 2012年10月8日釣り採集



イトヒキサギ (全長 10.5 cm)

自然遊学館の記録として貝塚市内での初記録

- ◆辻ゆうとさんより
ヒガンフグ 死体 1点
貝塚市二色 2012年12月11日採集

<軟体動物>

- ◆岡村親一郎さんより
ウグイスガイ 1点
フクラスズメ 1点
和歌山県南部堺港 1972年3月採集
フクラスズメ 2点
和歌山県白浜沖 1992年1月4日採集
フクラスズメ 10点
和歌山県白浜沖 1995年3月19日採集

フクラスズメ 2点
和歌山県白浜沖 2000年1月4日採集

<甲殻類>

◆河添純子さんより
アメリカザリガニ 1点
阪南市下滑石田橋
2012年6月13日採集

◆廣野光子さんより
キンセンガニ 死体1点
岬町淡輪 2012年10月7日採集

<昆虫>

◆実森武彦さんより
オオカマキリ 成虫1点
貝塚市橋本 2012年10月1日採集

◆自然遊学館わくわくクラブより
キバラモクメキリガ 成虫1点
貝塚市馬場 2012年11月23日採集
オオカマキリ 卵囊1点
クビキリギス 成虫1点
岸和田市河合町 2012年12月15日採集

◆森本静子さんより
ミズギワカメムシ 成虫1点
貝塚市二色 2012年12月11日採集



ミズギワカメムシ
(森本静子さん撮影)

◆北村直也さんより
オオカマキリ 成虫死体1点
堺市中区福田 2012年12月中旬採集

◆匿名希望さんより
フタモンアシナガバチ 巣1点
貝塚市清見 2012年12月14日採集

<寄贈写真>

◆食野俊男さんより
ウソ 2枚
カヤクグリ 2枚
和泉葛城山山頂 2012年11月20日撮影

◆大槻理さんより
クロホシマンジュウダイ 1枚
堺市浅香山(大和川) 2012年9月2日撮影

スタッフ日誌

11月17日、大阪みどりのトラスト協会、きしわだ自然資料館、貝塚市と岸和田市の教育委員会との合同で企画していた秋の和泉葛城山登山は、雨のため中止になりました。ブナ林の紅葉の美しさを見てもらう機会を逸し残念です。(スタッフ一同)

12月13日、今年最後の和泉葛城山での昆虫調査に行ってきました。犬鳴林道は以前から閉鎖中で、塔原コースも山頂付近が凍結していて、東手川林道も道路崩落で閉鎖中です。やむなく和歌山県側の神通温泉からのコースを登り、山頂から1km手前からは路面が凍結していたので車を降りて歩きました。

ブナ林内の雪の中、その静寂は死を感じさせます。それでも、フユシャクという冬に活動する蛾が見つかったりします。ブナの倒木の隙間にあったオニクワガタの死

体と、その近くのあちらこちらにあるノウサギが飛び跳ねた足跡とに、ここにも生と死があるのだと、感傷的になってしまいました。(岩)

12月21日、昼間、市民の方からの連絡で野球場のライトスタンドにカラスの巣があるという情報をいただいたので、見に行くことにしました。周辺は、海を埋め立てた場所にあり、高さ15mの場所に巣がありました。今の時期にカラスが巣を作ったりすることはなく、春の巣作りや繁殖をする時期に作られたものだと思います。(鈴)

お知らせ

特別展

「自然遊学館の2012年の出来事」

期間：2013年2月9日（土）

～3月24日（日）

土・日曜日・祝日

午前10時～午後5時（昼休み休館）

場所：自然遊学館特別展示会場

（元関空交流館）

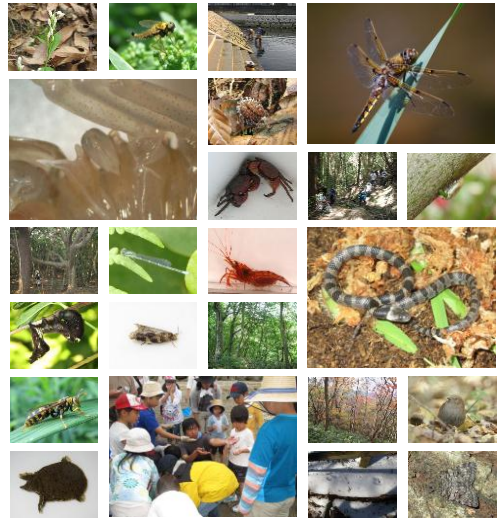
ヌートリア、ハイイロチュウヒ、コフジガイ、カヤラン、ムスジイトトンボ、シロマダラ、タンスイベニマダラ、などなど、2012年も市民の皆さまから、たくさんの生きもの情報をいただきました。それらの2012年の出来事を写真で振り返ります。

2012年11月23日から開催中のカタツムリ展の写真と標本は、好評につき、合わせて展示致します。なお、特別展示会場の開

館日時は、自然遊学館本館とは異なりますので、ご注意ください。

特別展 「2012年の自然遊学館の出来事」

～写真と標本で振り返る2012年の貝塚市の自然～



場所：貝塚市立自然遊学館特別展示会場（元関空交流館）

期間：2013年2月9日～3月24日まで 10：00～17：00

（土・日曜日と祝日開館 12：00～13：00は閉館します）

* 自然遊学館だよりのバックナンバーは、下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2013 冬号 (No. 66)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

発行日 2013. 1. 31

この小冊子は市内印刷で作成しています。